

条例

議案第 77 号 戸田市議会議員報酬及び議員の費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例  
審議会の答申に基づき議員報酬を引き上げ

可決(賛成 16 人 反対 9 人)

反対 本田 哲 議員

物価高騰で市民生活が苦しい中、物価高騰を理由に議員報酬を 8.7% 引き上げるのは不当。市民の理解は得られない。



反対 林 冬彦 議員

議員定数削減と関連し、行財政改革の議論が不十分なため、現段階での議員報酬増額は時期尚早。



賛成 三浦芳一 議員

30 年据え置き議員報酬。物価上昇や議会活動の活発化に鑑み、市民代表の審議会は報酬引き上げを提言。議員の福利厚生は皆無で、なり手不足も深刻。適正な報酬で議員の質を向上させ、市民福祉向上に尽くしたい。



戸田市特別職報酬等審議会から議員の報酬額を 8.7% 引き上げることの答申に基づき、議長、副議長、常任委員長、議員それぞれ、月額 39,000 円引き上げるものです。

条例

議員提出議案第 5 号 戸田市議会議員定数条例の一部を改正する条例  
議員定数を 26 人から 25 人に削減

可決(賛成 20 人 反対 5 人)

Q 人口増の本市で、削減しても民意が十分に反映できると考える理由は。

A 議員が何人いれば民意が反映されるということは客観的に言うことは不可能であり、各議員個人の感覚から判断することである。

反対 林 冬彦 議員

市民との対話不足、議員間の十分な議論なしに議員定数を減らすことは、民主主義を損なう。



反対 本田 哲 議員

十分な議論なく、議員定数を減らすことは民主主義を損なう。市民の声を反映するためには、現在の定数を維持すべき。



賛成 矢澤青河 議員

行財政改革の一環として、議員定数を 1 名削減。効率的な議会運営と市民への負担軽減を目指す。



賛成 遠藤英樹 議員

議会改革の一環として、議員定数を 1 名削減。今後の議会運営のあり方を見据え、理想の議会に近づけるための第一歩とする。



請願陳情

請願第 1 号(令和 3 年)日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求め、条約の実効性を高めるための主導的役割を果たすよう求める意見書を提出してほしい旨の請願  
不採択(賛成 4 人 反対 21 人)

賛成 本田 哲 議員

唯一の被爆国として、核兵器禁止条約への署名・批准を日本政府に求める意見書を提出することは、平和都市宣言の実現に向けた重要な一歩である。



陳情第 5 号(令和 4 年)・同第 8 号(令和 5 年)核も戦争もない平和な二十一世紀を求める要望書  
不採択(賛成 3 人 反対 22 人)

陳情第 6 号(令和 6 年)ガザ地区の即時停戦のための積極的外交を政府に要求する意見書の提出を求める陳情  
継続審査

陳情第 7 号(令和 6 年)母(王乖彦)が中国で不法に逮捕されている件に関する陳情  
不採択

陳情第 8 号(令和 6 年)「学校における犯罪から児童生徒及び教職員を守る体制整備を求める」陳情  
継続審査

# 委員会の審査から



## 総務常任委員会

市行財政運営、市有財産管理、消防行政、戸田ポートレース事業

〈令和 5 年度一般会計決算〉

委員 市役所の障害者雇用の状況は。

執行部 雇用している人数は 31 名、実雇用率は 2.93% であり、法定雇用率の 2.8% を達成している。

委員 令和 8 年 7 月には法定雇用率が 3.0% に引き上げられる予定であることも踏まえ、庁舎管理部門などと協力しながら、障害の有無に関係なく当たり前のように働ける環境をつくってほしい。

委員 不調となった入札の状況は。

執行部 約 60 件の不調があり、工事に係る案件においては技術者不足が一因として考えられる。

委員 救急出場の状況は。

執行部 令和 5 年の出場件数は過去最高の 8,458 件であり、高齢者の搬送が多く、熱中症による搬送も多い状況である。

〈令和 6 年度一般会計補正予算〉

委員 市職員におけるビジネスチャットの試験的導入で得られた効果は。

執行部 他の自治体職員との情報交換、スマートフォンでのチャットの確認などができ、非常に効率的だった、継続利用したいという声が多くあがっている。



職員の動きやすい環境整備が進んでいます(写真:市役所庁舎5階)

## 文教・建設常任委員会

学校運営、教育施設、社会教育活動、建設計画並びに事業、都市計画並びに事業、交通安全、住宅行政

〈令和 5 年度一般会計決算〉

委員 ぱれっとルームの利用状況は。

執行部 令和 5 年度は 94 名、令和 6 年度は 9 月現在で 83 名の児童が利用しており、教室とは異なる居場所の提供ができています。

委員 学校のある日は、ぱれっとルームにスクールサポーターを毎日配置してほしい。

委員 交通ビッグデータの収集方法は。

執行部 スマートフォンの位置情報に基づきデータを収集した。

委員 次回このような事業を行う際は、世代による交通ギャップも踏まえた総合的なデータ収集を行うことで、みんなが使いやすい交通環境の整備につなげてほしい。

委員 前谷馬場線の整備における雨水対策は。

執行部 道路整備の際、雨水が排水しやすい都市型の側溝を設置していく。

委員 これまでの整備に加えて、これまでとは何か異なった対策も検討してほしい。

執行部 引き続き、雨水対策に関する検討を進めていく。



全小中学校に設置され、誰にも居場所が開かれているぱれっとルーム